

# 国際バカロレアについて

## 1. 国際バカロレア（IB）について

国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が実施する国際的な教育プログラム。

同機構は、1968年、インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と国際理解教育の促進に資することを目的として発足。

認定校に対する共通カリキュラムの作成や、国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施。

## 2. IBのディプロマ・プログラムについて

IBでは、グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じた教育プログラムを提供。

このうち、ディプロマ・プログラム（DP）は、16歳～19歳を対象としたプログラムであり、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験に合格すると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が取得可能。授業及び試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

平成25年9月2日現在、世界におけるDP認定校は2,453校であり、このうち日本での認定校は18校となっている。

※このほか、IBのプログラムには、3～12歳を対象としたプライマリ・イヤーズ・プログラム（PYP）と、11～16歳を対象とした「ミドル・イヤーズ・プログラム」（MYP）がある。

## 3. 我が国の取組

(1) 我が国では昭和54年より、大学入学資格に関し、学校教育法に基づき、国際バカロレア資格を有する者で18歳に達した者を、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として指定。

(2) 平成25年度からは、国際バカロレア機構との協力の下、DPの科目の一部※を日本語でも実施可能とする「日本語DP」の開発・導入に着手。

※日本語で実施可能な科目は、当面以下の通り。

経済、歴史、生物、化学、Theory of Knowledge、Extended Essay、Creativity/Action/Service

（参考）日本語DPによるIB校の認定等に関するスケジュール（最短のケース）

- 平成25年10月 IBに対し、最初の日本語DPによる候補校申請
- 平成27年 2月頃 IBから、最初の日本語DPによるIB校認定（同年4月に1年生入学）
- 平成28年 4月 最初の認定校で、2年生より日本語DP課程開始
- 平成29年11月 同校で、3年生が国際バカロレア試験を受験（平成30年3月卒業）

(3) 平成25年5月、東京学芸大学を中心に、関心を有する高等学校等により、国際バカロレア、特に日本語DPの導入等に向けた情報共有等のための「連絡協議会」※が設立。

※ 国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会

#### 4. 国際バカロレアの推進に関する最近の提言等（抜粋）

○「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」 (平成25年6月14日 閣議決定)

「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)。」

○教育再生実行会議第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」

(平成25年5月28日)

「国は、国際バカロレア認定校について、一部日本語によるディプロマ・プログラムの開発・導入を進め、大幅な増加(16校→200校)を図る。」

○日本経済団体連合会「世界を舞台に活躍できる人づくりのために」

—グローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言— (平成25年6月13日)

「語学力のみでなく、コミュニケーション能力や異文化を受容する力、論理的思考力、課題発見力などが身に着くIBディプロマ課程(16歳～19歳対象)は、グローバル人材を育成する上で有効な手段の一つである。」

「ディプロマ取得者に対する社会における適切な評価も重要であり、大学入試における活用や、企業も採用時や人材活用において適切に評価することなどが重要である。」

「我が国においても、入試の際、TOEFLやTOEICなどの英語能力の4技能を測定できる外部試験を活用することや、入試においてIB資格を活用する大学を拡大することなども検討すべきである。」

○日米文化教育交流会議(カルコン)教育タスクフォース報告書 (平成25年6月13日)

「国際バカロレア資格を取得可能なプログラムを拡充する。」

(参考)

世界における国際バカロレア認定校数(平成25年9月2日現在)

146か国 3,664校 (26校)

うち PYP実施校 1,088校 (14校)

MYP実施校 1,026校 (7校)

DP実施校 2,453校 (18校)

※ ()内は、日本国内の認定校数。

※ 1校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラムごとの学校数の合計は全体の学校数と一致しない。

# IBを学ぶ人間像

## Risk-takers (挑戦する人)

不慣れな状況や不確実性に、勇気と気構えを持って臨むことができる。今までにない、方策、考え、役割を試そうとする自立的な精神を持っている。恐れず自分の信念を明言することができる。

## Communicators (コミュニケーションできる人)

様々な言語やコミュニケーションの手段を使って、考えや情報を理解し、自信を持って創造的に表現できる。まわりの人たちと進んで協力し合い、効果的(ものごと)に取り組むことができる。

## Principled (正義感のある人)

誠実かつ正直で、公平な考えと道義感を持ち、まわりの人々や地域社会を尊重して行動することができる。自分の行動とその結果に責任を持つことができる。

## Balanced (バランスのとれた人)

自分とまわりの人々が幸せな生活をおくるためには、知・情・体がいずれも大切であることを理解している。

## Knowledgeable (知識のある人)

地域や地球規模の重大な問題や事柄について、常に考えている。広くバランスのとれた学問領域について理解と知識を深めている。

## Reflective (振り返ることができる人)

思慮深く自分自身の学習や経験を見つめ直すことができる。自分の学びや成長を支えるために長所と限界を理解し、評価することができる。

## Caring (思いやりのある人)

ほかの人の気持ちや必要としていふことに共感し、尊重し、慈愛を示すことができる。まわりの人々の生活や環境をよくするために、個人的に関わり、積極的に行動し奉仕し続ける。

## Inquirers (探究する人)

好奇心あふれ、探究と調査のためのスキルを身につけている。自主的に学ぶことができる。生涯にわたって学ぶことを積極的に楽しむことができる。

## Open-minded (心をひらく人)

自分の歴史や文化を理解し、尊重し、他の人々や地域社会の持つ伝統、価値観、視点に心をひらくことができる。常に色々な人の意見に耳をかたむけ、検討し、それらの経験から成長しようとしている。

## Thinkers (考える人)

複雑な問題を認識し立ち向かうために、批判的かつ創造的に思考し、理性的で倫理的な決断を導き出せる。

